

新聞を活用した協働的な学び

～ 新聞を活用した探究活動とコミュニケーション能力の育成 ～

新潟県立新潟翠江高等学校

1 学校の概要

本校は、平成16年（2004年）に県立黒埼高等学校（全日制）、県立船江高等学校（定時制夜間部）、県立新潟高等学校通信制の3校が統合し誕生した。今年で創立22年目を迎えた定時制と通信制を併設した普通科の高校として、現在は1,000人を超える生徒が県内各地から通学している。生徒一人ひとりの適性に応じた柔軟な学習活動や多様性を尊重した教育活動により、単位修得や卒業を目指して学習に励んでいる。

本校では、「たゆまず前へ 拓く未来」の教育目標の下、生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、地域社会に貢献する力の育成を目指している。具体的には、定時制の企業訪問や地元企業と連携したインターンシップ、通信制の商業科目選択者による地元企業と協働した商品開発などに取り組んでいる。昨年度の翠江祭（定時制の文化祭）では、通信制の生徒が企画した商品を販売し、また、地元のスーパーでも販売されて御好評をいただいた。

本校は、生徒の適性や多様性を尊重した柔軟な学びを大切にし、働きながら高校卒業を目指す人、学び直しを希望する人など、多様な生徒一人ひとりを大切にしている。生徒が自分に合ったペースで学習を進め、卒業後の進路や将来について考えることで、自己の再発見と夢の実現につなげている。

2 NIE実践のねらい

本校は、「生徒の多様性を尊重しながら、人生を切り拓くことができる人材を育成する学校」というスクール・ミッションの下、①自学自習を基本とする学習活動をとおして、自ら意欲的に学び、課題解決に向けて探究的に学ぶことができる資質・能力を育成すること、②幅広い年齢層、学習歴の生徒が、県内全域から集まる学校として、多様性を尊重しながら、人生を切り拓くことができる人材を育成すること、③社会に目を向けるとともに、世界に視野を広げ、主体的に行動できる人材を育成し、地域社会に貢献することなどを目指している。

新聞を教材として活用することで、生徒が地域や社会の課題に興味・関心を持ち、課題解決のために必要なことを考えたり、主体的に行動したりするきっかけ



翠江祭（定時制の文化祭）でのスイーツ販売

にしたいと考えている。生徒が新聞を読むことで社会とのつながりを意識したり、卒業後の進路について考えたりすることにも役立てている。2年目に向けては、社会人として必要な対人関係能力やコミュニケーション能力の向上に資する取組を深めたいと考えている。

3 本年度実践の概要

(1) 新聞活用に向けた環境づくり

① 生徒玄関に「NIE コーナー」を設置

生徒がいつでも新聞を手にとって読むことができるよう「NIE コーナー」を設置した。平日は定時制課程の生徒、スクーリングがある土日は通信制課程の生徒が新聞を読んでいる様子を見かけることが多くなった。



(2) 授業やスクーリング等での活用

① 定時制課程での取組

国語科の「現代の国語」、「論理国語」の授業で、新聞記事の書き写しや漢字の書き取りなどで新聞を活用している。地理歴史科の「世界の暮らし」（学校設定科目）では、生徒が気になった新聞記事を発表し合う活動を行っている。

② 通信制課程での取組

商業科の「ビジネス入門」（学校設定科目）のスクーリングで、クラウドファンディングについて学ぶ際に新聞記事の内容を活用した。公民科の「公共」のスクーリングでは、時事問題等を紹介する際に新聞記事を随時活用している。

(3) NIE 研修の実施

① 職員対象 NIE 研修

ア. 日時 令和7年8月7日（木）10:00～11:30

イ. 講師 新潟日報社読者局 NIE チーフアドバイザー 木村 隆 様

ウ. 演題 「新聞の読み方講座～新聞のトリセツ、情報を「読む」「考える」～」

エ. 研修の感想等

まさに「目からウロコが落ちる」という言葉がぴったりの素晴らしい講義を拝聴させていただいた。新聞独特の表現や構成などについて御指導いただき、短い

時間で新聞から情報を得る方法（読み方）や新聞の一覧性を踏まえた活用の仕方等を学んだ。講義後の質疑応答でも活発な話し合いが行われ、講師の木村様が記者時代に経験した実際の取材現場での出来事や社説を執筆する際の心構えなど、



職員からの幅広い質問に的確に回答していただき、大変参考になった。

②校内授業研修（科目「公共」スクーリング）

ア．日時 令和7年11月22日（土）10：30～12：00

イ．指導者 県立三条高等学校教諭 押木 和子 様
県立新潟南高等学校教諭 早川 勝志 様

ウ．研修内容

「主権者意識を高める取組」について紹介した新聞記事を活用し、生徒が本校の校則やルールについて再確認したり、時代や社会の変化に合わせて見直したりした方が良いと思うことなどについて考えた。話し合いやグループワークなど協働的な活動を行う場面では、話し合い等に積極的に参加する生徒の様子も見受けられ、普段のスクーリングとは違った活動にも積極的に取り組んでいた。

エ．指導内容

探究的な視点を授業（スクーリング）の中に取り入れてみてはどうか。NIEのために何か特別なことをするというのではなく、例えば「中国」の記事から今の「日中関係」についてどう思っているか、生徒へ問いかけることなどが考えられる。また、生徒がコミュニケーション能力を身につけるという意味でも、人と関わることは大切である。話し合いはそのための機会でもあるので、NIEの取組も活用できるのではないかな。

4 実践例

(1)NIE まとめの校内授業研修（1年次）指導案

①日時 令和7年12月7日（日）公開授業（11:30～12:20）
研究協議（13:05～13:55）

②授業者 園田 健太郎（地歴公民科教諭）

- ③科目 公共（スクーリング）
 ④対象生徒 公共受講生（当日は10名参加、学年は区別していない）
 ⑤場所 社会科教室
 ⑥研究主題 「新聞を活用した協働的な学び」
 ⑦指導者 県立三条高等学校教諭 押木 和子 様
 県立新潟南高等学校教諭 早川 勝志 様

⑧主題の目的

- ア．新聞を活用した話し合いを通じて、他者との協調性を育む。
 イ．自分の考えや意見を述べることで、思考力や主体性、積極性を身につける。
 ウ．他者の意見を傾聴することを通じて、良好な人間関係の構築につなげる。
 エ．話し合いに参加することにより、自己有用感や自己肯定感を高める。

⑨スクーリング計画案

過程	指導の内容	生徒の活動	留意点
導入 5分	1. 出席確認 ①グループづくり 2. 前回の振り返り ①前回のスクーリングで提出されたワークシートの中から、感想の一部を紹介する。	・教師の指示により、4～5名程度のグループに分かれる。 ・参加者が自己紹介する。（氏名・クラス等） ・教師が配付したワークシートに氏名やクラス等を記入する。（受講票の代わりとする。）	・生徒同士が円滑に話し合いを行えるよう打ち解けた雰囲気づくりを促す。
展開 35分	1. 新聞を読む ①生徒に新聞を1部ずつ配付し、興味・関心を持った記事をワークシートに書かせる。 2. 新聞記事の紹介 ①「キャッシュレス決済」に関する新聞記事を紹介する。 （令和7年11月12日付・日本経済新聞）	・配付された新聞から、興味や関心を持った記事をワークシートに記入し、グループ内で発表する。 ・その際、なぜその記事に興味や関心を持ったのか、理由等も考え、発表する。 ・「キャッシュレス決済」にはどのようなものがあるか、教師の説明や新聞記事を参考にしながらワークシートに記入し、発表する。 ・「キャッシュレス決済」が広まっている背景や消費行動に与える影響について考え、ワークシートに記入し、発表する。	・新聞の読み方（縦書き）を知らない生徒でも読めるように気を配る。 ・話し合いの様子を見ながら、適宜アドバイスする。

	②「ブラックフライデー」に関する新聞記事を紹介する。 (令和7年11月27日付・朝日新聞)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ブラックフライデー」について、教師の説明や新聞記事を参考にしながら、「キャッシュレス決済」や「電子商取引」との関係について考え、ワークシートに記入し、発表する。 ・「ブラックフライデー」が過剰な消費行動の一因となっているとの指摘について考え、ワークシートに記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子を見ながら、適宜アドバイスする。
まとめ 10分	<p>1. 本時の振り返り</p> <p>①ワークシートへの記入を指示する。</p> <p>2. 連絡</p> <p>①後期試験について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の感想等を記入する。 ・本時の感想等について、グループ内で発表する。 ・教師から後期試験の日程等について話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜机間指導等を行う。

⑩ 本時の評価

ワークシートへの記入による自己評価



⑪ 研究協議会での指導

研究協議会では、新潟県 NIE アドバイザーの県立三条高等学校教諭・押木和子先生、県立新潟南高等学校教諭・早川勝志先生より御指導をいただき、他の参加者と意見交換が行われた。

ア. 押木和子先生より

授業の最初に、先生の指示で生徒が一斉に新聞を広げて読みはじめた光景は、見ていてとても素晴らしかった。生徒の目の輝きが違っていた。生徒が世の中の動きや出来事に興味・関心を持つきっかけとして、新聞は最適な手段だと思っている。授業で取り扱っている内容に合わせて、経済であれば経済、政治であれば

政治、国際関係であれば国際関係、というようにテーマを絞って（指示して）記事を探して読ませることもより効果的な使い方である。レポートやスクーリングを通じて学んだことが、新聞を読むことで現実の社会とつながっていることを生徒が実感してほしい。

イ．早川勝志先生より

新聞は、生徒が社会とのつながりや社会を構成する一員であることを自覚する（学ぶ）意味でも活用の意義は大きい。「キャッシュレス決済」や「ブラックフライデー」など生徒にとって身近なテーマを取り上げたことも良かったと思う。グループワークを通じて、生徒が自分の意見を発表すると同時に他人と意見交換をすることで、自己肯定感を高めることにもつながっていた。話し合いの場面では、教師がコントロールしてしまいがちになることもあるが、生徒同士が主体的に話し合いを進めていてとても素晴らしいと感じた。

5 成果

通信制における学習は、各教科等のレポート提出とスクーリング出席が中心となっている。生徒が「自己管理」の下でレポート提出やスクーリング出席を定められた期限や回数を意識しながら計画的に行い、家庭等における「自学自習」を基本として学習活動を進めている。こうした学習環境の中で、新聞をどのように位置づけて（活用して）生徒の力を伸ばすのか、試行錯誤を繰り返しながらNIEの活動に取り組んでいる。

今年度NIEの活動をはじめから、生徒同士の何気ない会話の中で時事問題やニュース等について話している様子を見かけるようになった。例えば、高市内閣誕生などの政治の話題、物価高や賃上げ（最低賃金の上昇）などの経済の話題、柏崎刈羽原発の再稼働などの地元や地域に関わる問題、日中関係やウクライナ情勢などの国際問題、その他にも生徒が幅広い視点からニュースや出来事に興味・関心を持っていることが伝わってきた。また、生徒の保護者から、NIEの活動がはじまってから子どもが家で新聞を読んだり、ニュースを見たりするようになったという話も伺った。このように、家庭も巻き込んでNIEの活動を進められるよう取組を継続していきたい。

「NIEの目的は生徒に力をつけることである」「新聞活用は手段であって目的ではない」、NIE担当者の研修会で最初に伝えられた言葉である。本校では、新聞を教材として活用することで、生徒が地域や社会の課題に興味・関心を持ち、課題解決のために必要なことを考えたり、主体的に行動したりするきっかけにすることを目指している。新聞を読むことで、生徒が社会とのつながりや卒業後の希望進路の実現について意識を向上させられるような力をつけさせたい。

来年度は、例えばレポートの中に新聞を活用して主体的な学習に取り組む課題を設定し、観点別評価の材料とするなどの授業改善を行いたいと考えている。NIEの活動が学校全体の取組となるよう、NIEアドバイザーの御助言や管理職の指導を仰ぎながら活動を深めたい。

（園田 健太郎）